

Higashi-kyushu Expwy.



宇宙ノオンセン県  
オオイト



日本一のおんせん県

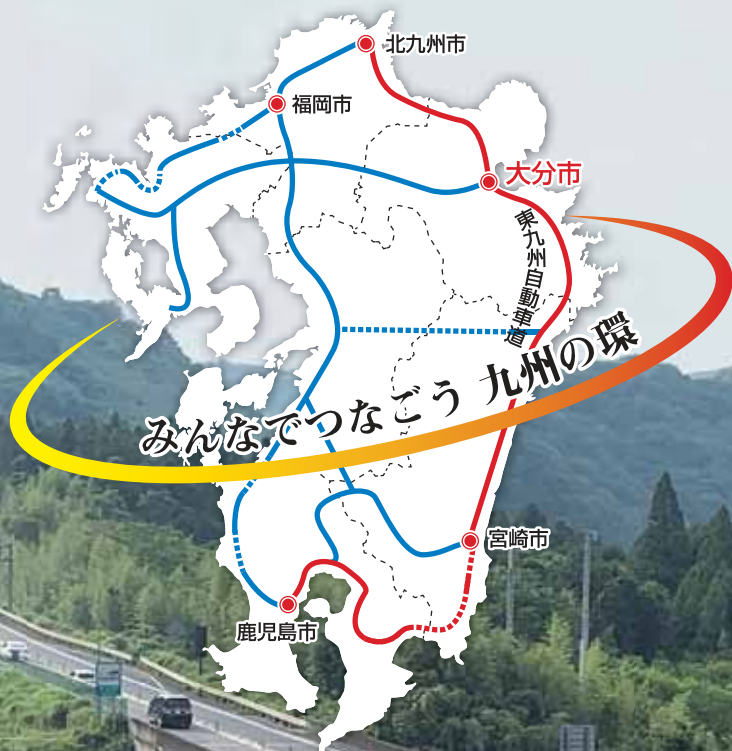
# 東九州自動車道 建設促進地方大会

## 報告書

開催日 令和4年8月1日(月) 会場 レンブラントホテル大分

東九州道

東九州軸の発展を目指し  
つくって活かそう!



### 4車線化事業着工式パフォーマンス



▲院内童龍太鼓



▲白竹高校書道部

宇佐IC～院内IC間  
【4車線化事業区間】

# CONTENTS — 目次 —

	<b>大会概要</b>	01
<b>第一部</b>	<b>基調講演</b>	02 ~ 06
	演 題：「高速道路は地域づくりのプラットフォーム」 講 師：西日本高速道路(株)九州支社 地域共創担当部長 瀨野 昌志	
<b>第二部</b>	<b>開会挨拶</b>	07
	大分県知事 広瀬 勝貞	
	<b>主催者挨拶</b>	08 ~ 09
	東九州自動車道建設促進協議会 会長／宮崎県知事 河野 俊嗣 東九州軸推進機構会長／(一社)九州経済連合会会長 倉富 純男	
	<b>来賓挨拶</b>	10 ~ 13
	衆議院議員 衛藤 征士郎 国土交通省九州地方整備局長 藤巻 浩之 西日本道路株式会社代表取締役社長 前川 秀和 サステナブル九州創造グループ副会長 村瀬 優介	
	<b>各県知事・市長アピール</b>	14 ~ 16
	福岡県副知事 生嶋 亮介 鹿児島県副知事 藤本 徳昭 北九州市建設局長 丹田 健二	
	<b>沿線住民代表の意見発表</b>	17 ~ 18
	宮崎県 河野 宗九郎 大分県 平井 佐季	
	<b>大会決議</b>	19
	大分県議会議長 御手洗 吉生	
	<b>がんばろう三唱</b>	20
	大分市長 佐藤 樹一郎	
	<b>大会の様子</b>	20
	<b>新聞記事</b>	21

# 大会概要

**開催日** 令和4年8月1日(月)

**場所** レンブラントホテル大分

**主催** 東九州自動車道建設促進協議会  
東九州軸推進機構

**後援** 公益社団法人 日本青年会議所九州地区協議会



今回、24回目を迎えた東九州自動車道建設促進地方大会は、東九州自動車道の早期完成にかかる沿線住民の熱い思いをアピールするため毎年開催していたが、全国的な新型コロナウイルス感染症の拡がりにより過去2回開催することができず、3年ぶりの開催となった。

東九州自動車道は、令和3年7月に「志布志IC～鹿屋串良JCT間」の約19kmが開通し、供用延長が約380kmとなり、全延長の約87%が開通した。さらに、令和4年度には「清武南IC～日南北郷IC間」が開通予定となっている。

しかしながら、唯一未事業化区間として残っている「南郷～奈留間」は、事業化されておらず、また、開通区間のほとんどが暫定2車線であるなど、全線完成には遠く及ばない状況であることから、更なる整備推進を求め、沿線4県1市の住民ら約300名が会場に集結した。

大会では、西日本高速道路株式会社九州支社の濱野昌志地域共創担当部長が「高速道路は地域づくりのプラットフォーム」と題して基調講演し、西日本高速道路株式会社が取り組んでいる、地域の観光資源、文化資源、産業資源、人的資源の4つの資源と高速道路というプラットフォームを生かした地域づくりについて発表された。

第2部では、開催県代表として広瀬勝貞大分県知事の開会挨拶に始まり、東九州自動車道建設促進協議会会長の河野俊嗣宮崎県知事、東九州軸推進機構会長の倉富純男一般社団法人九州経済連合会会長がそれぞれ主催者挨拶を行い、衛藤征士郎衆議院議員をはじめとする来賓の挨拶につづき、生嶋亮介福岡県副知事、藤本徳昭鹿児島県副知事、丹田健二北九州市建設局長からのアピールに加え、宮崎県、大分県の沿線住民代表による意見発表を行い、東九州自動車道の早期完成の必要性・重要性を強く訴えた。

続いて、未事業化区間の早期事業化、暫定2車線区間の4車線化の早期実現などを提言する大会決議を御手洗吉生大分県議会議長が行い、来場者の万雷の拍手により採択した。

むすびに、開催地である大分市の佐藤樹一郎市長が頑張ろう三唱を行い、国並びに関係機関に対し、東九州自動車道の早期完成をアピールすべく参加者が氣勢をあげた。



## 基調講演



### 演題 高速道路は地域づくりのプラットフォーム

#### 講師

西日本高速道路(株)九州支社  
地域共創担当部長

#### 濱野 昌志氏

本日は東九州自動車道建設促進地方大会の開催、誠にありがとうございます。『高速道路は地域づくりのプラットフォーム』ということで、NEXCO西日本として取り組みを進めています地域共創活動についてお話しさせていただきます。

まず会社概要ですが、関西から九州・沖縄までの24府県が管轄エリアとなっております。高速道路の供用延長は、西日本全体で3,550km、九州では1,095kmが開通しています。主な事業ですが、保全サービス事業、建設事業に加え、最近は大規模修繕や更新事業が増えています。また、関連事業としてサービスエリア(SA)、パーキングエリア(PA)事業などがございます。合わせて東九州自動車道の概要ですが、北九州市を基点とし、大分、宮崎、鹿児島各県を結ぶ計画延長436kmの高速自動車国道で、平成28年4月24日に北九州市から宮崎市までの約320kmが開通し、昨年(2021年)、で5年を迎えました。東九州自動車道における弊社事業ですが、9区間、約

45kmの4車線化事業を実施中でございます。このように九州の高速道路はネットワーク化が進んでいる中、これから先の社会に、高速道路というインフラをどのように活かしていくか?という視点に立ち、特にソフト面の充実について、地域の皆様と共創活動を取り組み始めました。本日は高速道路を通じたこれまでの①地域連携活動と、最近の共創活動事例についてお話しさせていただきます。

まず地域連携活動の3つの事例です。初めに自治体様と連携した地域の観光振興ということで、高速道路が定額で乗り放題という『ぎゅぎゅっと九州まんきつドライブパス』を実施しております(今年(2022年)は7月8日から11月30日まで)。続きまして、西日本各自治体様と連携して実施しています広域周遊企画の『お国じまんカードラリー(2020年からデジタルスタンプラリー化)』です(2023年1月末まで)。最後にSA・PAを活用した事例として、高速道路の利用がなくても一般道からSA・PAをご利用いただけるよう『ウエル

カムゲート』を設置しております。また、包括連携協定を締結した自治体の皆様とS A・P Aを活用した地域連携イベントなども実施しております。

これらの事例は、弊社起点でのサービス展開による主に観光促進の視点で地域活性化への貢献事例のご紹介でした。

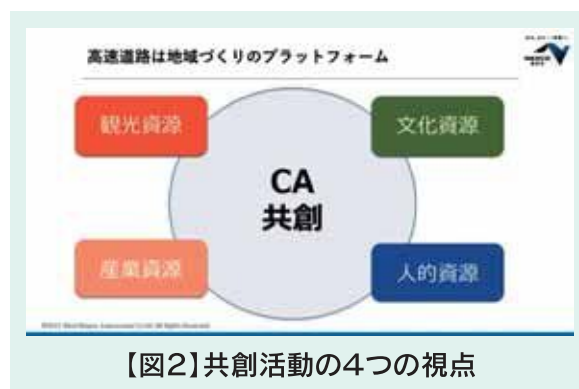
ここからが演題でもあります『高速道路は地域づくりのプラットフォーム』についてお話しさせていただきます。移動サービスでは、MaaSというプラットフォームがありますが、「アズ・ア・サービス」という視点は弊社としても参考となります。これは私が活動する上で意識しているところですが、『ハイウェイ・アズ・ア・サービス(Highway as a service)』的な視点を持つことによりが、高速道路が地域づくりのプラットフォームになり得るのではないかなと思います。これまで伸びてきた高速道路とは逆の人口減少という現象とのギャップをしっかりと意識して活動していきたいと思えます。プラットフォームのイメージとしてスマートフォンがわかり易いかと思います。スマートフォンは筐体や電話機能がすばらしいのではなく、個々のアプリケーション、つまりコンテンツがどれだけ魅力的かということかと思えます。高速道路も高速・広域移動をはじめ、救急救命や災害支援、移動時の休憩といった基本機能の価値は十分提供できていると思えますが、そうした可能性のあるインフラ(プラットフォーム)だからこそ、もっと使いたくなるコンテンツを増やすことで地域創生にも繋げることができると信じています。その上で大事なのが「共創」だと考えます。私どもだけでは価値創出が難しい時代にある中、地域の皆さまとアイデアを出し合い、協働し、チャレンジすることで顕在化する事象が生まれます。そのことを糧にすることで地域社会に役立つものが創出できると信じています(共創活動)。これも私個人の想いですが、高速道路と言えばS A・P Aといった固定概念がある中で、如何にし

てその殻を破って新しいイメージ(期待)を社会に提示できるかチャレンジしていきたいと思えます。イメージは、地域との共創(コ・クリエーション)視点をもったC A(コ・クリエーションエリア)的な概念です。【図1】



【図1】プラットフォームのイメージ

このような思考の中で、現在取り組んでいる共創活動事例についてご紹介します。現在、(1)観光資源の活用、(2)文化資源の活用、(3)産業資源の活用、(4)人的資源の活用の4つの視点で取り組んでいます。【図2】



【図2】共創活動の4つの視点

最初は(1)観光資源を活用した観光誘客プロジェクトです。大分県の佐伯市様、中津市様と一緒に、グルメ旅を味わい尽くす新しいクルマ旅キャンペーン「旅っチャ」を2022年7月30日からスタートしました。これまでは、観光地を事前にチェックし詳細な行程を作っていく、いわゆる『旅行』が主流だったと思います。今は詳細な行程を立てずに、偶然性を楽しむような『旅』感覚で移動されている方も多くなっているように感じています。そこで新しいクルマ旅の提案として、非日常感のあるS Aから始まる、偶然がもたらすワクワク感と地域の魅力を

## 基調講演



【写真1】大分道山田SA下り

発見する旅の演出ということで、『旅っチャ』を展開しています。(旅っチャ機【写真1】)このプロジェクトのスタートは、2020年にコロナ禍で観光誘客がなかなか進まないという課題を抱えていた

佐伯市様から弊社にご相談があり企画提案し、両者の協働により実現したものです。今では、航空会社や鉄道会社、ホテルなど、色んなところで偶然性ある旅の提案が始まっています。

『旅っチャ』サービスの概要です。高速道路のSA・PAに設置された旅っチャ機を通じて、地域の個店(飲食店など)を繋ぐ、遊び心あるゲーム性の要素に偶発性を持たせた新しいクルマ旅を提案するような企画です。旅っチャカプセルの中には、自治体様の企画によるその地域ならではのお得なクーポン券などが入っています。自治体様がこのサービスを導入する目的が何点かあるかなと思っています。コロナ禍で再注目されているクルマ旅の新しい企画を実施したい。また、遊び心ある企画で地域の魅力を発信して域外から地域への誘客を増やしたい。シンプルだけれどもゲーム性があり、話題性のある企画を実施したい。幅広い年齢層で楽しめる企画を実施したい。もちろん高速道路を絡めて地域への誘客を図りたいというような思いがあり、弊社にお声掛けいただいているのではないかと思います。実施結果ですが、佐伯市様の例では、2020年と2021年に実施していただいておりまして、2回とも用意したチケットは完売しました。チケット利用率は、平均して76%の方が実際にSAから佐伯市に訪れていただいています。また、半数以上が県外からお越しいただいております。特にメイン

ターゲットする福岡県域からは31%ということで、新しいクルマ旅が地域への呼び水になったのではないかなと思っています。実際に訪れたお客さま情報ですが、リピーター層が一番多く、2番目に多かったのが初めて訪れた層でしたので実施してよかったと思います。3回目となる今年(2022年)は、「佐伯旅っチャはしご寿司」という、佐伯市内の8店舗のお寿司屋さんと連携した企画となっています。佐伯市内には、徒歩圏内に複数のお寿司屋さんがあるため、食べ比べしていただきたいという思いから提案し実現したものです。

今年、初めてご参加いただきました中津市様は、「なかつお得や券」ということで、市内114店舗の飲食店でご利用いただけるチケットが入っており、地域全体を堪能いただける企画になっています。

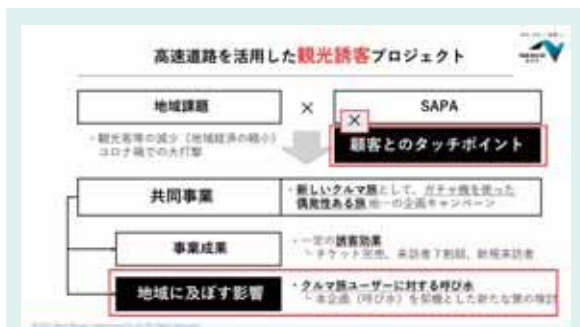
『旅っチャ』企画は、2020年に佐伯市様からスタートし、2021年と続き、同じく2021年には愛媛県伊予市でも同様の企画が実施されました。今年、中津様に初めて参加いただき、現在、今秋の実施に向け宮崎県延岡市様とも調整中で、本企画が九州各地、四国へと広がりはじめています。将来的には、商業施設にある『ガチャガチャの森』のように、SAに各地域の旅チケットが詰まった旅っチャ機が一箇所に集まった『旅っチャの森』をつくりたいと思っています。

これまでの地域連携は、料金の割引やSA・PAの場の提供といった弊社が持つリソースと地域からの依頼(広報PRやイベント等)に基づき実施してまいりました。今説明した『旅っチャ』もそうですが、このあとお話しする事例は、地域共創ということで、お互いが持つリソースを持ち寄りながら、一緒に地域の課題解決に取り組んでいます。弊社が取り組む地域共創活動のイメージ【図3】ですが、真ん中にある渦を巻いているところが、色々な方々と混じり合いながら新しい価値を創出していっていくそんな活動であります。



【図3】NEXCO西日本が取り組む地域共創活動

弊社が地域づくりをするときには、基本的な共創活動フレームをもって活動しています。地域の課題に対して、NEXCO西日本の持つ既存リソースとそこに新しい視点から編集を加え、地域との協働事業として展開することで実際の事業成果や地域への影響について具体的な現象を発現させることを念頭に活動しています【図4】。



【図4】地域共創活動を行う上のフレーム

続きまして(2)文化資源の活用に事例として、北九州市様、下関市様、ベンチャー企業 (Voicy様、門司港ポルト様)と連携をして取り組んでいる『関門ONAIR』という、音声を使った空のサービスエリアという企画コンセプトで展開している企画です。

2021年に関門橋の両端にあります、めかりPAと壇之浦PAがリニューアルオープンすることに合わせて、新しい店舗内に、ラジオ収録ブースのような情報発信スペースを設けて取り組んでいます【写真2】。この『関門ONAIR』は、「まちの中に潜むディープな魅力を発掘するローカルオブローカルなメディア」を運営方針としまして、当たり前にあることで気



【写真2】収録スペース (壇之浦PA)

づかない魅力を発掘しながら、知ることによって世界が変わるような体験をお届けしたいということで、地域の人が地域の声を応援したくなるような、そんな声のインフラを創りたい思い、地域の方々と一緒に挑戦し続けています。配信スタートから約1年経過しましたが、165回の放送で、地域のゲストが48名、総再生回数が7300回ということで、地道にコンテンツを積み上げてきています。『関門ONAIR』と検索していただいて、一度ご試聴いただけますと嬉しいです。関門ONAIRの収録を通じ、これまで知らなかった地域情報を知ることができました。地域に住む人々の経験や知恵、歴史といった文化資源に目を向けることで、この混沌とした令和の時代を生き抜くヒントがあるかもしれないと感じてきていますし、こうして地域の肉声をデジタルデータとしてアーカイブすることは、地域にとっても大事なことではないかと思いはじめています。

次に(3)産業の資源活用の事例です。佐賀県小城市様、福岡地域戦略推進協議会様と弊社の三者で連携をした、高速道路を基点とした地方創生プロジェクトとして、市民と地元企業を巻き込んだ活動を行っています。活動の具体事例としましては、地元企業と協力し、市民ワークショップ(リビングラボという手法)【写真3】を経て、新しい地域のお土産品を3品開発しました。小城市と言えば羊羹が地域産業の一つですが、その羊羹を一口サイズかつ7色揃え

## 基調講演

た新しい羊羹を提案した『ogi cube(オギキューブ)』という商品は、S Aでの販売も好調で、2021年の福岡デザインアワードで金賞を受賞したりしています。

最後に(4)人的資源の活用の事例です。宮崎大学様、九州アイランド㈱様と連携して、高速道路では初となるコワーキングスペースを設置し実験なども行っています(今年3月末で実験終了)。九州は循環型の高速道路ネットワークが存在するので、広移動するユーザーに対してどういう価値が提供できるかということでコワーキングスペースを設置しました。設置直後から新型コロナウイルスの影響を受け思うような実験結果は得られませんでした。その中でも今後につながるデータも得られましたので、改めて違う場所でもチャレンジしてみたいなと思っています。



【写真3】小城市リビングラボの様子

最後に最近のトピックスです。地域創生プロジェクト連携ということで、民間の複合施設との連携や地域商社との連携も始まりました。今年の4月には福岡市東区千早にある高橋㈱様が運営するガーデンズ千早と、5月には宮崎県高原町と奥霧島地域商社ツナガルたかはる㈱様と一緒にプロジェクトをスタートしております。早速の相乗効果として、ガーデンズ千早で奥霧島マルシェを開催するなどしており、今後も福岡都市圏と九州の各地域とを繋いで参りたいと思っています。

まとめとなりますけども、ネットワーク化された高速道路をどのように活用していくかということで、地域の方々と新しい市場を創造し、新しい移動、旅をトータルコーディネートしてまいりたいと思っています。旅には、旅マエ、旅ナカ、旅サキという三つの時間があると思います。例えば、旅マエとして福岡市のガーデンズ千早で情報を知り関心を持っていただき、旅ナカでもあります高速道路上のS Aで『旅っちゃ』を回したり、コワーキングスペースで働きながら休んでいただくようなことを体験していただきながら、目的地の旅サキでは、新しいお土産等の地域市場創造ということも含めて、弊社とて、移動・旅をトータルコーディネートできるようになりたいと思っています。

「みち、ひと…未来へ。」これはNEXCO西日本のブランドスローガンです。安全安心快適な高速道路が結ぶ人と人、地域と地域、夢広がるアイデアと心のこもったサービスで新しい出会いや喜びを生みだします。NEXCO西日本は百年先の未来に向け、技術の革新と新たな価値の創造に挑み続けます。ということで、これからも共創活動を進めて参りますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。本日は貴重な機会をいただきまして誠にありがとうございました。

をとということで、これからも共創活動をして進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしく願いします。

最後、早口になってしまいましたけれども、私からのお話は、以上となります。ありがとうございました。



# 開会挨拶



大分県知事

## 広瀬 勝貞氏

皆さんこんにちは。東九州自動車道建設促進地方大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止を余儀なくされておりましたけれども、今回、3年ぶりにご案内をいたしました。お忙しい中、たいへん多くの方々にお集まりをいただきまして、このように盛大に開催できますことを心から感謝申し上げます。また、本日まで出席いただいております沿線住民の方々、国会議員、各県県議会議員の皆様をはじめ、ご関係の皆様には日頃から東九州自動車道の建設にご尽力をいただいております。深く敬意を表しますと共に、改めて感謝を申し上げます。さて、東九州自動車道は、平成28年4月に北九州市から宮崎市までが開通し、九州自動車道と連結して九州を循環する高速交通ネットワークが形成されたわけでありませう。これによりまして、物流の円滑化や経済活動の活性化、広域観光周遊ルート形成による観光振興など、さまざまな面での開通効果が目に見えて現れております。具体的には、沿線市町に多くの企業が進出しておりました。新たな雇用も創出されております。さらに移動時間の短縮やモーダルシフトなどを背景に、大分港などでは、ROR船で扱うシャーシ台数が増加するなどの物流の効率化に加えまして、トラックドライバーの労働改善にもつながっております。まさに東九州自動車道と港湾との連結によりまして、関東や関西方面との人や物の交流が活性化し、九州の東の玄関口としての拠点化が進んでおります。

このように、東九州自動車道のストック効果を日々、実感している一方、まだまだ課題も残されております。宮崎県や鹿児島県では事業中区间や未着手区間が残されておりました。北九州市から鹿児島市までの高速交通ネットワークが完全にはつながっていない状況であります。また、すでに開通している区間の大半が暫定2車線でありまして、交通事故や災害発生時の通行止めといった課題も残されており、高速道路本来の機能が十分に発揮されているとは言えません。今後、発生が懸念される南海トラフ地震や、頻発化、激甚化する災害から地域住民の安全を確保し、迅速な救援活動を支える災害に強いネットワークの構築が不可欠でありまして、そのためにも東九州自動車道の全線開通、および、4車線化をはじめとした機能強化はたいへんに重要となります。

また、九州の縦軸の強化に併せまして、九州中央自動車道、中九州横断道路、中津日田道路といった、西九州と連結する横軸の整備促進も非常に重要であります。ミッシングリンク解消やダブルネットワーク化、4車線化をしっかりと加速させ、早期に高速交通ネットワークを完成形でつなぎ、九州全体の経済活動や広域観光の促進、大規模災害の発生に備えた国土強靱化に結びつけていくことがたいへん重要であります。整備を確実に進めていくためには、その財源を長期的にしっかりと確保していかなければなりません。この点もこれまで以上に皆様方と一致団結して、取組を進めていく必要があると考えています。東九州自動車道の早期整備促進は、沿線4県1市の共通一致の願いであります。本日、ご臨席の皆様方におかれましては、早期整備にかかる沿線900万住民の熱い熱い思いを十分におくみ取りいただきまして、引き続き、力強いご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。開催県のあいさつとさせていただきます。皆さん、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 主催者挨拶



東九州自動車道建設促進協議会会長  
宮崎県知事

### 河野 俊嗣氏

宮崎県が、未開通の区間が最も長いということもあり、会長を仰せつかっております宮崎県知事の河野でございます。本日、3年ぶりに多くの皆様にお集まりいただき、このように地方大会を開催できますことをたいへん心強く、ありがたく思っております。

日頃からお世話になっております国会議員の先生方、国土交通省の皆様、NEXCOWest日本の皆様、沿線自治体、そして経済界、そして最前列に控えておられる「道づくりを考える女性の会」の皆様からは、残っているのは宮崎なんだから、もっと頑張りなさいという思いを、今、感じているところでありますが、大変心強く、ありがたく思っております。

先ほどNEXCOWest日本濱野部長の基調講演の中でもありましたが、北九州市と宮崎市が結びついたのもほんの6年前のことなのだと感じると同時に、十数年前のことも思い出しております。

私の子どものサッカー大会のために高知県の宿毛にバスをチャーターして行ったのですが、宮崎市から佐伯市まで4、5時間かかりました。そしてそこからフェリーで宿毛まで行ったのですが、本当に遠いなというようなイメージを持ちました。そして、その大会ではチームが2年連続の優勝をし、夕方に終わった大会からの帰りのバスの中では、大祝賀会が始まったのですが、当時はまだ高速道路があるわけでもなく、サー

ビスエリア、パーキングエリアの様なものがあるわけでもないで、トイレの近くなった大人達が嘆きながら、結局、宮崎市内にたどり着いたのが深夜の1時か2時でした。

とにかく遠いということを感じていたのですが、今日は、宮崎市内の公舎からノンストップでこちらまで来まして、3時間切りましたね。2時間45分ぐらいで着きました。本当に近くなったなど、ありがたく思っております。

先ほどの濱野部長の基調講演での高速道路というハードを、さらにソフトでいろいろとつなげていき、地方創生の一つの軸にしていこうというお話、すばらしいと思いました。

もちろん、我々としては完成したインフラを有効に使うということをやりながらも、まだまだ残されているミッシングリンクの解消や暫定2車線区間の4車線化、安全性や利便性を高めるためのサービスエリアやパーキングエリアの更なる充実等、様々な課題を抱えているという思いを一つにして、さらに前に進んでまいりたいと考えております。

昨年7月には「志布志～鹿屋申良」間が開通し、そして、いよいよ今年度中に「清武南～日南北郷」間が開通するということで、東九州自動車道の整備は着実に一步一步進んでおります。全線開通に向けて、そして、九州を一つの輪にしていく。そういう思いを一つにしなが、これからも皆さんと心をつなぐ、財源の確保と手厚い配分、そして早期の完成を目指して頑張ったいと思っております。

10月には2年ぶりに中央大会も開催いたしますので、今日の皆様の熱意、思いをしっかりと国に届け、国会議員の先生方のお力添えもいただきながら、早期の全線開通を目指してまいりたいと思っております。

本日は、そういう思いを皆様と共にする地方大会であり、重ねて、皆様のご参加、ご協力に心からの感謝を申し上げまして、会長としてのご挨拶とさせていただきます。引き続き、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。ありがとうございました。



東九州軸推進機構会長  
(一社)九州経済連合会会長

## 倉 富 純 男 氏

東九州軸推進機構会長の九州経済連合会、倉富でございます。主催者を代表いたしまして、一言、ご挨拶を申し上げます。本日は、東九州自動車道建設促進地方大会に、多数のご臨席を賜りましたこと、まず、厚くお礼を申し上げます。

私ども東九州軸推進機構では、東九州地域における産業と経済の活性化を目指しまして、地域と一体となった活動を行っております。その一環として、循環型の高速交通網の整備促進、特に東九州自動車道の整備につきまして、建設促進協議会との連携を推進しているところであります。東九州自動車道は、農林水産物の販路拡大、自動車関連産業のさらなる集積、広域観光ルートの形成や高度医療施設へのアクセス向上など、九州全体の産業・経済・文化の一体的浮揚を図る上で陸海空の交通ネットワークの骨格をなす最重要路線であります。

また、災害時における高速道路の果たす役割は非常に大きく、支援物資の輸送はもとより、津波発生の際の避難場所としての機能を有し、地域住民の生命財産を守る社会インフラといたしまして、その重要性が認識されております。

当機構は、1991年の設立以来、30年以上になりますけれども、長年の活動の結果、先ほどの広瀬知事、そして河野知事からもお話がありましたように、今年度は宮崎県の「清武

南～日南北郷」間が新たに開通予定となっております。これによりまして、北九州市から日南市までつながることとなります。

一方で、東九州自動車道の計画総延長436キロ、このうち未開通区間がまだ1割以上残っております。このままでは、南海トラフ地震などの大規模災害時に命の道としての機能を果たすことができません。今年1月に発生をいたしました日向灘を震源といたします最大震度5強の地震は記憶に新しいところであります。

ミッシングリンクを早期に解消し、循環型高速交通ネットワークが完成することで、人流、物流がいっそう効率化され、当地域の持つポテンシャルを顕在化できます。残すは未事業区間の南郷から奈留、約13キロを含む日南市以南の区間となります。この未整備区間の早期完成を強く願うところでございます。

また、東九州自動車道においてはそのほとんどが暫定2車線区間であり、対向車線への飛び出しによる死亡事故、並びに、事故による通行止め及び渋滞が多発いたしており、交通連携を阻害いたしております。安全性と定時性の確保のため、4車線化の早期実現についても、併せて取り組んでまいりたいと思います。

本日、ご臨席いただいております先生方におかれましては、東九州自動車道をはじめとする真に必要な道路の整備について、引き続き、あらゆる場面で強く主張をしていただけるよう、改めてお願いをする次第でございます。結びになりますけれども、東九州自動車道の一日も早い完成を目指し、本日ご臨席の皆様方と手を携え、力を結集して活動していくことをお誓い申し上げます。本日は、誠にありがとうございます。

## 来賓挨拶



衆議院議員

### 衛藤 征士郎氏

皆さんこんにちは。ただ今紹介にあずかりました、衆議院議員、衛藤征士郎であります。私は、全国高速道路建設推進議連の会長を仰せつかっておりまして、その立場からもごあいさつを申し上げたいと思います。冒頭に、本大分大会を主催されました河野宮崎県知事、そして倉富九経連会長をはじめ、ご関係の皆さんに心から感謝お礼を申し上げます。また、本大会にご出席の各県の知事、県議会議員、市町村長、市議会議員、各議員や経済界の皆さん、多くの方々がこの会に出席する中で、特に、国土交通省九州地方整備局藤巻局長、西日本高速道路前川社長、「道づくり女性の会」の皆さん、平素からたいへんご尽力をいただき、心から敬意を表し、感謝お礼を申し上げる次第であります。私ども国会議員として、今日、たくさんの議員がおいでであります。東九州自動車道436km、いまだ全線開通せず、たいへん大きな責任を感じるわけでありまして、また、特に、いまだに「南郷～奈留」間が未整備区間ということでありまして、この区間につきましては事業化に向けまして、全て、今日の大分大会を契機にして、いついつまでには、この間、事業化するというのを、やはり決めてほしいなど、こういう思いを持っております。ご案内のとおり、令和5年度予算につきましては防衛予算のこととか、また、例年の福祉予算のこととかいろいろなことが大きく前に出てきまして、そのことも

しっかり見据えながら、我々としては東九州自動車道予算を確保すると。ミッシングリンク、あるいは、未整備区間、整備中の事業区間、また、暫定2車線の4車線化事業、一つ一つを着実に進めていかなきゃなりません。今日は、私から藤巻局長、それから前川社長に特にお願いしておきますが、概算要求、今月末で取りまとめられるわけでありまして、それを前提にいたしまして、436km全般の予算獲得をしっかりと、倍増を目指して予算要求してほしいと思っています。いつものとおりだと、なんのための今日の大分大会をやったのかという、そういうことが問われると思います。これほど多くの皆さんが集まってあの大会をやったのに、予算はぜんぜん増えてないじゃないかと。例年通りじゃないかというならば、ほんとうに私ども、責任を感じますし、これほど皆さんが一堂に会してるわけですから、ぜひ、もう一度申し上げます。藤巻局長と前川社長、是非。これ、もう、3回申し上げましたからね。是非、予算、「おおっ」という倍増を目指して予算要求していただくことを心からお願いし、結びといたしまして、ご出席の皆さん、炎天下であります。コロナのこともあります。非常に厳しい状況であります。健康にもご留意をいただきまして、ますますご活躍くださることを祈念し、期成会、そして協議会と、ますます拡充発展することも併せて念じて、激励等、また、私どもの皆さんに対する決意を申し上げてあいさつに代えます。ありがとうございました。



国土交通省九州地方整備局長

## 藤 卷 浩 之 氏

ただ今、衛藤先生から大変な叱咤激励を賜りました、九州地方整備局の藤巻でございます。本日は、この大会がこれだけ多くの方がお集まりの中で開催されますことを心からお喜び申し上げます。また、皆様方には、北九州市から鹿児島市まで、全線開通がまだかまだかということをやっとお待たせしている状況の中で、このように盛大に多くの方々がお集まりいただいておりますことが、事業者を代表する立場といたしまして心強く感じるところでございます。

先ほどお話がございましたが、今年度中に「清武南～日南北郷」間が、ようやく開通できそうな案配になってまいりました。

ご存じの方も少なくないかと存じますが、昨年9月の台風による大雨で宮崎市と日南市、串間市、志布志市、霧島市とをつなぐ国道220号が、大規模な山崩れによって、JR日南線ともども1カ月以上、全面通行止めを余儀なくされました。地域の方々には、県道や市道などを通じて相当な迂回をさせていただいたり、日南市などから宮崎市内の学校に通われているお子さまをお持ちのご家庭では、朝の4時や5時に起きてお子さまを学校までお送りされたというお話も伺いました。

皆様のご支援で、なんとか1カ月ちょっとで開通させることはできたのですが、今年度予定しております「清武南～日南北郷」間が開通しておれば、そういうご不便をおかけしなくても済んだと思いますと、しっかりと、一日でも早く、その開通を目

指していかなければいけないと思っております。

また、その日南市から先に目をやりますと、「油津～南郷」間と「奈留～夏井」間で、地域の方々のご理解、ご協力のたまものにより用地がまとまってまいりました。お陰を持ちまして、志布志市内、串間市内、日南市内、この3箇所今年秋には工事を始められる案配になってまいりました。具体的な時期や内容については、しっかり詰めて、お世話になってる方々に改めてしっかりお伝えをしてまいりたいと思っております。

整備局では、昨年7月に九州広域道路ネットワークという新しい計画を出しました。およそ四半世紀ぶりぐらいの、九州全体の高速道路等をどういうふうにネットワークを作っていくかという計画であります。

その計画のキャッチフレーズ、これは、「クロスからリングへ」というものでございます。クロスというのは縦貫道、門司区から鳥栖市を通過して鹿児島市まで、並びに、長崎市から同じく鳥栖市を通過して大分市まで、そのクロスネットワークが既にできておりますので、これにいろいろなリングを整備していこうと。東九州道も400キロ以上にわたるとても大きい大切なリングだと思っておりますので、精いっぱい進めてまいりたいと思っております。

もちろん、それに先立つのは予算でございます。予算というのは財政当局が案を作られて、国会でお決めいただきます。私ども事業者としても精いっぱい予算を確保するよう頑張っております。

その一方で、本日も来席の衛藤先生をはじめとする国会議員の先生方、並びに自治体、首長の皆様方、経済界の皆様方、地域の皆様方のお声を財政当局や国会の方々にはしっかりお届けいただければ、私ども整備局として、これに勝るお助けはございません。

私どもも頑張りますので、ぜひ、皆様方の引き続きのご支援をお願い申し上げますとともに、本日の大会が実り多いものとなることを心からご祈念申し上げまして、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。本日は、おめでとうございます。

## 来賓挨拶



西日本道路株式会社代表取締役社長

### 前川 秀和氏

西日本高速道路の前川でございます。本日は、東九州自動車道建設促進地方大会がこのようにご盛況のもと、3年ぶりに開催されますこと、心よりお祝い申し上げます。

また、先ほどは弊社の地域共創の取組に關しまして講演をお聞き下さり、大変ありがとうございました。様々な取組を進めておりますので、ぜひ、ご興味を持たれた関係者の皆様におかれましては、九州支社の瀨野までお気軽にご連絡いただければ大変ありがたいと思っております。

さて、本日は、東九州自動車道建設促進議員連盟会長の衛藤先生をはじめ国会議員の先生方、宮崎県河野知事、大分県広瀬知事、また、沿線自治体の多くの首長の皆様、そしてご列席の皆様方、弊社の事業につきまして日頃から格別のご理解、ご協力を賜りまして、この場をお借りいたしまして厚くお礼を申し上げます。

さて、東九州自動車道につきましては、平成28年の4月に北九州市から宮崎市の間がつながり、新たな九州の循環型ネットワークが形成されたところでございます。

一方、藤巻局長からお話がありましたように、九州は大変災害の多い地域でございます。多くの地域で集中豪雨による被害が発生しておりますが、高速道路も例外ではございません。毎年のように高速道路の法面が崩れるなどの災害が発生しております。このような災害が発生した際、4車線区間におきましては、比較的被災の少なかった

車線を活用して、対面通行として早期に交通を確保することが可能になりますが、暫定2車線では通行止めが長期間にわたるとということにもなりません。

こういったことから高速道路は本来の4車線以上が必要だと痛感をしているところでございます。皆様方からも暫定2車線区間の4車線化のご要望をいただいております。現在の進捗よく状況につきましては、平成30年に事業許可をいただきました「隼人東～加治木」間、平成31年に事業許可をいただきました「苅田北九州空港～行橋」間、「宇佐～院内」間、「大分宮河内～津久見」間、「宮崎西～清武」間、これらの区間につきましては、現在、全て工事を展開中でございます。これから工事が最盛期を迎えますので、大幅に事業費を増加していかなければならないと思っております。頑張ってもらいますので、よろしくお祈りを申し上げます。

また、令和3年以降に事業許可をいただきました「築城～椎田南」間、「大分宮河内～佐伯」間、「高鍋～西都」間につきましても、現在、調査設計を行っております。できるだけ早く工事に着手できるよう頑張ってもらいます。これら区間につきましては、引き続き、一日も早い完成を目指しまして、事業の確実な推進を図ってもらいたいと考えております。ぜひ、皆様方の強力なご支援、よろしくお祈りしたいと思っております。

また、スマートインターチェンジにつきましても、東九州自動車道でこれまでも何カ所か整備を進めてまいりましたが、現在、新富スマートインターチェンジについて建設中でございます。これについてもよろしくお祈りしたいと思っております。

最後になりますが、本日のこの地方大会の皆様方の熱い思いが東九州自動車道のミッシングリンクの解消、また、暫定2車線の4車線化の早期整備、さらにそれが九州全体のさらなる発展につながりますことを心からご祈念を申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。本日は、どうもおめでとうございます。また、ありがとうございます。



サステイナブル九州創造グループ副会長

## 村瀬 優介氏

私は、公益社団法人日本青年会議所九州地区協議会で、今年度、副会長を仰せつかっております村瀬優介と申します。会長の川越が、所用により出席できないため、祝辞を預かっておりますので代読させていただきます。

本日のご盛会、誠にありがとうございます。日頃より、我々、日本青年会議所九州地区協議会の活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。本日は公務のため、会場にて参加できませんことをお許しください。

さて、道路は国民の日常生活や経済活動を支え、我が国の国際競争力強化や地域の活性化に資する社会基盤として、また、災害時の避難路や緊急輸送路として非常に重要な役割を果たしています。

しかし、九州内においても、いまだ多くのミッシングリンクが残されており、南海トラフ巨大地震への備えや、近年、激甚化している台風や豪雨による自然災害への対応、重大事故発生時の代替道路確保のためにもミッシングリンク解消が喫緊の課題であります。

また、暫定2車線区間の早期4車線化や、予防保全への転換に向けたインフラ、老朽化対策、特に地方が管理する橋梁が多い我が国では老朽化対策が地方財政にも大きな負担であり、国による支援で国と地方が一体となり、早急に点検、修繕が行われることが求められているなど、早期に取り組むべき課題が山積して

います。

これらインフラ投資は、コロナ禍からの復興局面においても地域経済を下支えするものであり、西九州の九州自動車道と連結することにより九州を一周する循環型高速道路ネットワークが完成すれば、東九州地域はもちろん、九州全体の産業、経済、文化の一体的浮揚を図っていくことができます。

我々、青年経済人の団体である青年会議所といたしましても、これらの課題について会員の理解を深め、東九州自動車道の早期整備に向けて行動を起こしていく所存でございます。

結びとなりますが、本日お集まりの皆様、そして、我々の熱い思いが届き、東九州自動車道の早期整備が実現しますことをご祈念申し上げて祝辞に代えさせていただきます。

公益社団法人日本青年会議所九州地区協議会2022年度会長、川越秀和、代読でございました。本日は、どうもありがとうございました。

# 各県知事・市長アピール



福岡県副知事

## 生嶋 亮介氏

皆様、こんにちは。福岡県副知事の生嶋でございます。

本日は、東九州自動車道の早期完成に向けた福岡県からのアピールを服部知事から預かってまいりましたので、代読をさせていただきます。

御出席いただいております国会、各県議会の先生方、並びに国土交通省、経済界、西日本高速道路株式会社の皆様、沿線住民の皆様におかれましては、日頃から、東九州自動車道の建設促進に御尽力、また、御理解をいただいておりますことに、深く敬意を表しますとともに、この場を借りて感謝を申し上げます。

皆様も御存知のとおり、東九州地域は、観光や産業など、様々な可能性を有しております。

本県の北九州及び京築地域におきましても、自動車関連をはじめとした「ものづくり産業」が集積をしております。また、いちじくの「とよみつひめ」や「豊前海一粒かき」など農林水産業も盛んであり、神楽・修験道をはじめとした「観光資源」にも恵まれております。

また、当該地域には、九州で唯一24時間利用可能な空港である北九州空港、そして、国際拠点港湾である北九州港、重要港湾である苅田港、そして東九州自動車道があり、まさに陸海空、交通の要衝でもあります。

東九州自動車道は、平成28年に北九州市から宮崎市まで繋がりました。これにより、九州

自動車道、大分自動車道、宮崎自動車道と一体となって、九州に循環型ネットワークが形成されたことで、九州の発展に今後も貢献していくものと大いに期待をしております。

しかしながら、開通をしている区間の大半が、暫定2車線区間であるため、大規模災害時の対応、対面通行による速度低下など、高速自動車道としての本来の機能を十分に発揮することができず、更なる安全性の向上、定時性の確保が重要な課題となっております。

平成30年7月豪雨では、福岡県の椎田南インターチェンジから豊前インターチェンジ間で上下線に土砂が流出し33日間に及ぶ全面通行止めが発生し、社会経済活動に多大なる影響を及ぼしました。

こうした大規模災害時の高速道路ネットワークの機能を確保するとともに、九州が一体となった、より一層の地域間交流、経済活動を促進するためにも、東九州自動車道の未開通区間の早期完成はもちろん、暫定2車線区間の早期の全線4車線化が必要であります。今後とも、皆様方と手を携えて、その実現に取り組んでまいります。

結びにあたり、この大会に参加する私たちの熱い思いが、東九州自動車道完成に向けた大きな推進力になりますことを心から祈念をいたしまして、福岡県からのアピールといたします。

令和4年8月1日

福岡県知事 服部 誠太郎





鹿児島県副知事

## 藤本 徳昭氏

本日、御臨席の国会議員の先生方をはじめ、国土交通省、西日本高速道路株式会社及び経済界など関係の皆様には、日頃から東九州自動車道の建設促進に多大な御支援・御協力をいただいておりますことに、深く感謝申し上げます。本自動車道につきましては、昨年7月に志布志インターから鹿屋串良ジャンクション間の約19キロメートルが開通し、鹿児島市や鹿児島空港から志布志市まで高速道路で繋がりました。この沿線地域では、企業立地件数が増加しており、国際バルク戦略港湾である志布志港に隣接する志布志市臨海工業団地の分譲は、既に完売となっております。また、志布志港の原木輸出量は年々増加傾向にある中、12年連続で全国第1位となるなど、着実に開通の効果が現れております。本自動車道の整備が今後さらに加速することにより、民間投資の誘発等のストック効果が一層発揮されるものと考えております。また、本県は九州の最南端に位置し、南北600キロメートルにおよぶ広大な地域に広がっており、その地理的優位性を活かし、南に開かれたアジアの玄関口として、また、我が国の食料供給基地として、高いポテンシャルと発展可能性を有しております。東九州自動車道のルートに位置する大隅地域は、鹿児島黒牛やかごしま黒豚、ばれいしょなどの名産地であり、県内有数の農業地帯であるほか、本土最南端の佐多岬や2018年の大河ドラマ「西郷どん(せごど

ん)」のオープニング映像にも使用された「雄川(おがわ)の滝」、花を楽しむことができるテーマパークとしては日本最大級の規模を誇る「かのやバラ園」など、多彩な観光資源にも恵まれております。また、本年10月には、全国の優秀な和牛が一堂に集まる「第12回全国和牛能力共進会鹿児島県大会」が県央に位置する霧島市などを会場として開催されるほか、来年10月に開催される国民体育大会「燃ゆる感動かごしま国体」、特別全国障害者スポーツ大会「燃ゆる感動かごしま大会」では、大隅地域において、自転車やサッカー、バレーボールなど多数の競技が実施される予定となっております。観光を含め、こうした様々な機会に、多くの方々が東九州自動車道を利用して来県されることに大きな期待を寄せております。しかしながら一方で、志布志市から宮崎県日南市においてはミッシングリンクが残されており、中でも南郷・奈留間の約13キロメートルは未だ事業化に至っておりません。本自動車道は物流や観光等の産業面において重要な役割を担っていることに加え、大規模災害時には、広域避難や緊急輸送等の防災面においても欠かせず、東九州地域にとって社会的・経済的に意義を持ち、多大な効果をもたらす、まさに地方創生、地域活性化に必要不可欠な道路であります。本自動車道沿線地域のポテンシャルを最大限発揮するためには、長期的かつ安定的に本自動車道の整備に係る予算が確保され、ミッシングリンクの早期解消を実現することが極めて重要であると考えており、当県といたしましても、関係県・市町、機関・団体等の皆様と一丸となって、引き続き、国に対して強く要望してまいります。終わりに、本日の地方大会に結集された皆様の熱意が、本自動車道の早期完成に向けた推進力となりますこと、そして、御出席の皆様のお健勝、御活躍を心より祈念いたしまして、鹿児島県のアピールいたします。

# 各県知事・市長アピール



北九州市建設局長

## 丹 田 健 二 氏

皆さんこんにちは。北九州市建設局長の丹田でございます。本日は市長の北橋が、他の公務の都合によりまして出席ができませんでした。大会の開催にあたりまして、東九州自動車道の建設促進にかけます市長の思いを預かってまいりましたので、代読をさせていただきます。本日、ご列席の国会議員の方々をはじめ、国土交通省、西日本高速道路株式会社、ならびに経済界など、関係の皆様方におかれましては、日頃より東九州自動車道の整備促進にご尽力いただき、厚くお礼を申し上げます。東九州自動車道は平成28年に北九州市から宮崎市までがつながり、最近では、苅田北九州空港インターチェンジから行橋インターチェンジの一部区間の4車線化工事をはじめ、各地で整備が進んでおります。これにより九州全体の産業や経済、観光や文化の一体的な発展、安全性や快適性の向上、災害時の代替え機能強化など、これまで以上に弾みがつくと期待しております。本市はもの作りの町として発展し、鉄工や化学などの素材産業、自動車やロボットなどの加工組立産業が集積しています。また、近年、響灘地区において、カーボンニュートラルの実現にも資する洋上風力発電関連産業の総合拠点の形成に力を入れているところでございます。このような産業の経済活動を支えるのは、自動車専用道路をはじめとする幹線道路ネットワークや24時間利用可能な空港、充実

した航路ネットワークを持つ港湾などであり、本市では、昨年度新たに北九州市物流拠点構想を策定し、これら物流基盤の整備に取り組んでいます。特に北九州空港における貨物取扱量は2年連続過去最高を更新し、さらには、滑走路延長の国の調査が進むなど、本市の物流拠点の実現に向け、追い風となっています。また、ヤマトグループが貨物専用機を導入し、令和6年4月から、九州の航空輸送の拠点として北九州空港へ就航することが発表され、この北九州空港のポテンシャルを最大限生かすためにも、ますます東九州自動車道の重要性が高まっています。さらに、にぎわい交流の分野では、本年4月に「北九州市科学館・スペースLABO」と「ジ・アウトレット北九州」といった、広域から来報した皆様にも楽しんでいただける施設もオープンしました。これらの施設なども活用し、東九州自動車道を通じて沿線自治体間の連携交流をさらに強化し、東九州地域全体でのいっそうのにぎわい作りを進めてまいります。また、防災の観点からも東九州自動車道などの高規格道路は支援ルートや代替えルートとして災害時の緊急輸送道路となり、非常に大きな役割を果たします。豪雨災害は毎年のように全国各地で発生しており、今後、南海トラフ地震の発生も懸念されています。大規模化、激甚化する災害へしっかりと対応するには、高速道路ネットワークの充実、強化が急務であると考えております。今後とも東九州地域の発展のため、4県1市が団結して、未開通区間の早期整備、ならびに暫定2車線区間の4車線化の必要性を国に強く訴えてまいります。結びに、本日の大会が東九州自動車道の一日も早い4車線での全線開通に寄与できることを祈念し、また、引き続き、ご臨席の皆様方のご協力を賜りますようお願いして、北九州市のアピールとさせていただきます。令和4年8月1日、北九州市長北橋健治代読。ありがとうございました。

# 沿線住民の意見発表



宮崎県日南市  
(株)河宗本店 代表取締役(日南商工会議所 常議員)

## 河野 宗九郎 氏

### 東九州自動車道「清武南～日南北郷間」開通に伴う “(仮称)道の駅北郷”の令和5年開業に向けた 未知への挑戦

皆様こんにちは。私は、株式会社河宗本店の河野宗九郎と申します。はじめに、簡単に私の自己紹介をさせていただきます。私は、宮崎県の南部に位置する、日南市北郷町で飼肥杉の製材業をしています。

2022年度、東九州自動車道が開通し、翌年、日南北郷インターチェンジ入り口に“(仮称)道の駅北郷”ができることを聞き、私、昭和56年生なのですが、同級生と2020年にゴロウ商店という会社を立ち上げました。現在、指定管理運営予定者となっています。

本日は、その話を少しさせていただきたいと思います。

まず、日南市は人口5万人の町ですが、毎年800人程度減少しているという現状があります。そのような時、日南市北郷が東九州自動車道とつながるのが間もなくであるということを知り、やり方次第では大きなチャンスになるのではないかと思いました。

先ほど河野知事もおっしゃったんですけども、私たちが県外に行く時に、大きな荷物を持って、そして、4、5時間かけて行っていた時代から、ここ30年で、手ぶらで行ける時代がやって来ました。高速道路が通ると地方から人が出て行くということよりも、私は、地方に帰って来れる、行くことができると思います。

そのため、「道の駅北郷」は職場も幅広い層や、市外者でも容易に働けるような環境を作っていきたいとも考えています。

昨年は武蔵野美術大学の方と宮崎大学の方に来てもらって、「森林オープンイノベーション」という事業をやりました。今年度に関しては、「山フェス」をやる予定でもあります。

また、日南市北郷はクリエイティブな町で、朝は6時より家の隣の畑を耕し、自給率は約70%とされています。こういった、メイドイン日南の物を県外に持って行けるということも強みではないかと考えます。

そして、「道の駅北郷」は、今までになかった体験ができる道の駅を目指します。

グローバル化が進む中、春先にはタケノコを採ったり、夏場にはカブトムシを捕ったり、森の中で読書をしたり、冬はキャンプをしたりと、むしろそれに逆行する様な考え方、つまり、携帯電話と仕事をオフできるような、デトックスができるような場所を作りたいと考えております。

食に関しても、海の幸、山の幸が豊富です。郷土料理の継承、そして、新商品開発、地域資源を生かした仕組みづくりも考えております。先日は、地元の婦人部の方とソーメンの麺作りをしました。シイタケの味がきいて、とてもおいしかったです。

最後に、大事なことは、高速道路が開通することにより、もちろん、物流も確保され、港湾の活用なども増加すると思いますが、これを機に、地域に活気が出るのが、まず、大きな第一歩ではないかと考えています。

では、活気をどうやって出すのか。それは、「変わらない」という考えから「変える」という気持ちを持つこと。先ほど濱野部長がおっしゃったように、100年先の未来を考える。そして地域がつながること、これが大事だと私も思います。

そのためにも、この高速道路の一日も早い全線開通を望んでおります。

2021年には「道の駅くしま」ができ、2023年には「道の駅北郷」ができます。ぜひ、南の玄関口に遊びに来てください。ご静聴、ありがとうございました。

## 沿線住民の意見発表



大分県佐伯市  
肩書き2行目●●●●●●●●

### 平井 佐季氏

#### 「わたしとあの人の心を動かす、 近づける、東九州自動車道。」

皆さんこんにちは。大分県佐伯市から参りました、佐伯の季節と書いて平井佐季と申します。私の出身は福岡中洲で、創業137年の花屋「花キク」の娘です。現在は佐伯市で「みどり荘」というシェアハウス、コワーキングスペース、シェアキッチンといういかにも今風な場所を運営しています。他にシェアサイクル事業や大漁旗アロハの販売事業も行なっています。

なぜ博多っ子の私が佐伯に移住しているのか。

大学生時代に水上スキーに出会い、2012年から中津市の耶馬溪ダムで水上スキーインストラクターとして着任し、日本代表も経験させていただきました。実は九州で本格的に水上スキーの練習ができるのは、宮崎県綾町と耶馬溪ダムの二つだけで、この二つを繋ぐのが東九州自動車道です。今年も宮崎で行われた全国ジュニア大会には全国から水上スキーヤーが東九州自動車道を利用して集まりました。東九州自動車道の発展はスポーツの発展にも繋がっています。

私と佐伯との出会いは、友人の誘いで古民家のリノベーションを手伝いに行ったことでした。東九州自動車道が開通していたとは言え、正直遠かあって思いました。でも佐伯はいい意味で私の期待を裏切ってくれたんです。初めての佐伯は南国の空気感があって人の勢いも良く本当にいい

町で、温かさに魅了されて、気づけば移住していました。移住後は地域おこし協力隊としてサイクルツーリズムや、佐伯の魅力を福岡に伝える企画をしていました。運営している「みどり荘」では、毎日県内外からの様々な方がふらっと寄って、仕事をしたり、ご飯を食べたり、誰かと誰かが繋がって毎日何か生まれています。私は元々繋ぐということが好きで周りからは得意だと言われますが、有難いことに皆さんが何かしているから自然と繋がりが生まれているところに、私「平井佐季」という人間が偶然いるのだと思っています。

みどり荘を拠点に人の交流が増えていく中で、私自身の人生が豊かになっているということを実感しています。私の人生は、東九州自動車道の発展があったからこそどんどん変化して、どんどん楽しく豊かな方向に向かっていきます。先日も友人が関西からフェリーで志布志市に来て、宮崎佐伯に寄りフェリーで帰りました。宮崎と志布志市を東九州自動車道が結ばれることで、きっともっと皆さんの人生が豊かになるということが、自分のことの様に分かります。

あるエピソードを。私の祖父は花屋のサブスク「花キューピット」の創設メンバーでした。高度経済成長期当時、花屋業界の発展のために今では普通になったステンレス製の生花スタンドの性能と技術の普及を全国に軽トラで駆け回ったと聞いてます。物や人が動くだけではなく技術や思いが伝わるには、道が繋がり人々が繋がって交流することが、本当に大事だと思います。そして、東九州自動車道で繋がり合った私達が先頭に立って、どんどん東九州自動車道を利用して、お互いの良さを引き出しあうことで沿線地域がさらに発展していくと思います。

私にはおかえりと言ってもらえる場所が九州にたくさんあります。これも東九州自動車道により多くの人と繋がることができたからです。私みたいな人を増やしたい。だから私は佐伯に移住して「みどり荘」をしています。ここにいらっしゃる皆さんのおかげです。本当にありがとうございます。これからもよろしくお願い致します、という気持ちです。本日はありがとうございました。

# 大会決議



大分県議会議長

## 御手洗 吉生氏

大分県議会議長の御手洗でございます。大会決議案、ご提案させていただきます。

大会決議案。

一つ、災害への備え、および、観光等の経済活動復興のため、人流、物流の活性化に向けた高規格道路のミッシングリンクの解消や、暫定2車線間の4車線化、ダブルネットワークの構築を図ると共に、防災、減災、国土強靱化のための5カ年加速対策に必要な予算、財源を確保し、計画的に事業を推進すること。加えて、5カ年加速化対策後も中長期的な視点で継続的に対策を講じる必要があることから、必要な予算、財源を安定的に別枠で確

保するなど、今後の国土強靱化に向けた対策の制度設計に対して十分配慮すること。

一つ、令和5年度予算については、高速道路網の整備を推進するための所要額を満額確保すること。

一つ、整備の遅れている地方への高速道路関連予算の重点配分を行うと共に、住民の暮らしと命に関わる高速道路ネットワークを早期に構築すること。

一つ、東九州自動車道の事業中区間については開通目標年次を明確にし、着実に整備を推進すること。

一つ、未事業化区間南郷奈留間の早期事業化を図ること。

一つ、有料の高速道路の有効なインフラを持続的に利用するため、料金徴収期間の延長による更新事業等の追加や、暫定2車線の4車線化などの機能強化に必要な財源を安定的に確保すること。

一つ、道路利用者の安全性や利便性の向上のため、休息施設のさらなる充実を図ると共にスマートインターチェンジの整備など、地域との関連を図ること。

一つ、災害発生時における機能確保や維持管理を着実に行うため、地方整備局等の賃金体制や機材の充実強化を図ること。

以上を決議する。

令和4年8月1日、東九州自動車道建設促進地方大会。よろしくお祈りします。

## 大会決議

九州の東海岸部を南北に走る東九州自動車道は、福岡、大分、宮崎、鹿児島の4県からなる東九州地域の日常生活や通勤通学に必要な「生活の道」であり、また、「平成28年熊本地震」では、九州自動車道及び大分自動車道が寸断される中、支援ルートや代替ルートとして大きく貢献するなど、災害時には「命をつなぐ道」として機能しており、南海トラフ地震等の今後も想定される大規模災害に対応するため、東九州自動車道の早期全線開通及び機能強化による一層の国土強靱化が必要である。加えて、地方創生の基盤となる地域の産業・経済の発展を支える「活力の道」ともなる東九州自動車道は、平成28年4月の北九州市から宮崎市間の広域開通後、人や物の流れが格段に活発化しており、まさに東九州地域の「屋台骨」である。

さらに、西九州の九州自動車道と連結することにより、九州を一周する循環型高速道路ネットワークが完成し、東九州地域はもちろん、九州全体の産業・経済・文化の一体的浮揚が図られる待望の路線である。

全延長436kmのうち約87%の区間が開通しているが、九州自動車道が全線開通し、九州新幹線鹿児島ルートも全線開業した西九州地域と比べ、東九州地域の高速交通体系の整備は大きく立ち遅れている。

東九州自動車道の完成は、東九州地域900万人を超える沿線住民の長年の悲願であり、その熱い思いを毎年の建設促進地方大会で決議し、189万人もの方々の署名を、我々は中央関係機関に届けてきた。

このような地元の熱意を十分踏まえるとともに、インフラ投資はコロナ禍からの復興局面においても地域経済を下支えるものであることから、遅れている東九州自動車道の早期整備に向け、次の事項について強く提言する。

一 災害への備え及び観光等の経済活動復興のため、人流・物流の活性化に向けた高規格道路のミッシングリンクの解消や暫定2車線区間の4車線化、ダブルネットワークの構築を図るとともに、「防災・減災、国土強靱化のための5カ年加速化対策」に必要な予算・財源を確保し、計画的に事業を推進すること。加えて、5カ年加速化対策後も中長期的視点で継続的に対策を講じる必要があることから、必要な予算・財源を安定的に別枠で確保するなど、今後の国土強靱化に向けた対策の制度設計に際して十分配慮すること。

一 令和5年度予算については、高速道路網の整備を推進するための所要額を満額確保すること。

一 整備の遅れている地方への高速道路関連予算の重点配分を行うとともに、住民の「暮らし」と「命」に関わる高速道路ネットワークを早期に構築すること。

一 東九州自動車道の事業中区間については、開通目標年次を明確にし、着実に整備を推進すること。

一 未事業化区間「南郷～奈留 間」の早期事業化を図ること。

一 有料の高速道路の良好なインフラを持続的に利用するため、料金徴収期間の延長による、更新事業等の追加や暫定2車線の4車線化などの機能強化に必要な財源を安定的に確保すること。

一 道路利用者の安全性や利便性の向上のため、休息施設の更なる充実を図るとともに、スマートICの整備など地域との連携を図ること。

一 災害発生時における機能確保や維持管理を確実に行うため、地方整備局等の人員体制や資機材の充実・強化を図ること。

令和4年8月1日 東九州自動車道建設促進地方大会

# がんばろう三唱



大分市長

## 佐藤 樹一郎氏

皆様こんにちは。大分市長の佐藤でございます。本日は河野会長、倉富会長さんをはじめ、多くの皆様に大分にお越しいただきまして誠にありがとうございました。

それでは、436キロの早期完成と4車線化を国の中枢に皆様の声が届くように、がんばろう三唱を行いたいと思います。

今、お話がありましたとおり、私が代表して発声をさせていただきますので、皆さん、心の中で強く願いをいっしょに祈っていただければと思います。

それでは皆様、構えてください。東九州自動車道の早期完成、4車線化に向けて、クロスからリングへ、楽しく豊かに、がんばろう。がんばろう。がんばろう。ありがとうございました。



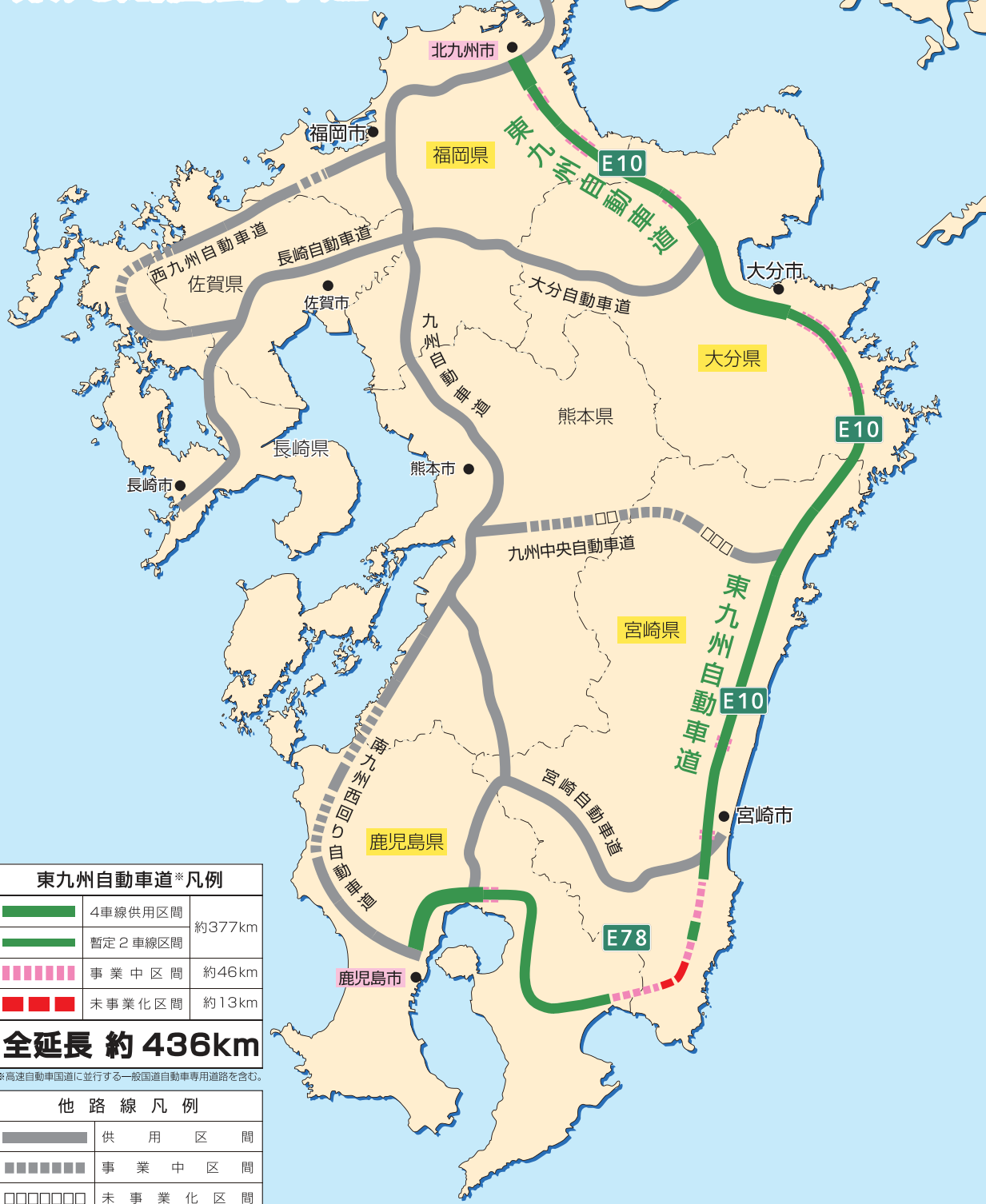
## 大会の様子





# 東九州自動車道ルートマップ

## 東九州自動車道



東九州自動車道※凡例	
	4車線供用区間
	暫定2車線区間
	事業中区間
	未事業化区間
<b>全延長 約 436km</b>	
<small>※高速自動車国道に並行する一般国道自動車専用道路を含む。</small>	
他路線凡例	
	供用区間
	事業中区間
	未事業化区間

## 東九州自動車道建設促進地方大会

**主催** 東九州自動車道建設促進協議会／東九州軸推進機構

**後援** 公益社団法人 日本青年会議所九州地区協議会